



Contents	Series 理事長インタビュー 「開院1年を振り返る」	1・2
	Report 病棟の一日を追う	3・4
	Feature 特集 病院の歩み	5・6
	What's NAGASAKI REHABILITATION HOSPITAL	7
	Work on 病院の取り組み	8
	Impressions 聞いてみゆうde	9
	Essay 食べてみゆうdeうまかもん	10

## Topics

### クリスマスコンサート&ツリー点灯式



昨年12月6日(土)、クリスマスコンサートを行いました。

この演奏会、長崎県音楽連盟の協力を得てシーズンごとに開催しているもので、リハビリ中の患者さまをはじめ、ご家族、周辺住民の皆さまに、安らかな癒しのひとときを過ごしていただくのが目的。



一足早いクリスマスソングは聴衆を魅了。ツリー点灯式では、最年少の患者さまがカウントダウンを行いました。

### 月に1度のビュッフェスタイルのお食事会

毎月恒例のビュッフェスタイルのお食事会。気分転換を図りながら、この日だけは好きなものが気軽に食べられるとあって、人気を集めています。

毎回、患者さまが趣味を活かしてこしらえたフラワーアレンジ(写真右下)も、各テーブルに彩りを添えます。



## Information

### 訪問リハビリテーションのご案内

当院では、ご来院いただくことができない患者さまのご自宅を職員が訪問してリハビリテーションを実施する「訪問リハビリテーションサービス」を行っています。

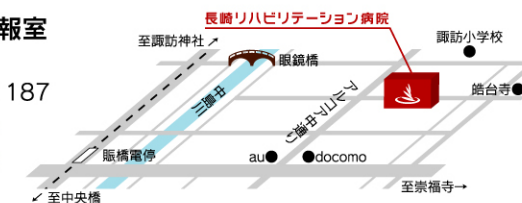
詳しくは、☎095-818-2002 までお問い合わせください。

### 看護師募集

当院では看護師を募集しています。詳しくは、当院のホームページまたは、事務部人事(☎095-818-2002)までお問い合わせください。

### 編集後記

開院1周年を記念して、広報誌「銀屋NIKI」(銀屋んにき)を創刊しました。タイトルは、長崎弁で、当院のある「銀屋町回り」を意味します。病院と共に皆さまに愛され、面白くてお役に立つ情報誌に育てていきたいなあと思っていますので、忌憚のないご意見をぜひ、お聞かせください。(西)



Series 理事長インタビュー  
「開院1年を振り返る」

**栗原正紀** (くりはら・まさき)  
昭和27年、佐世保市生まれ。長崎大学医学部卒業後、長崎大学脳神経外科講師、十善会病院脳神経外科部長、同副院長、近森リハビリテーション病院院長などを経て、平成18年、社団法人是真会理事長、平成20年、長崎リハビリテーション病院院長。医学博士。



写真=宗 英治 編集=石田雅博 デザイン=井上友治

## 患者さまに全員で関わる チーム医療を目指して

長崎市銀屋町に長崎リハビリテーション病院がオープンして2月で1周年を迎えます。脳卒中を中心とする回復期リハビリテーションの専門病院を誕生させた理由と、これからの目標について、理事長の栗原正紀に話を聞きました。  
(聞き手・企画広報室西村真理)

——昨年2月1日、リハビリテーション専門病院が開院しました。まず、この病院を立ち上げた理由を聞かせてください。

### 現場の医師や看護婦の頑張りにも報いたい

**栗原正紀** 長崎市の人口約45万人のうち、年間に救急搬送される脳卒中の患者さんは、800人を超えています。この中で、命は助かったけれども障がいが残って、専門的なリハビリが必要な患者さんは600人くらい。この数は、社会の高齢化に従って、どんどん増えていくだろうといわれています。

僕自身、脳神経外科医で、脳卒中の救急医療に携わってきた者として、リハビリの専門病院をつくるのが悲願でした。

われわれの病院がリハビリ専門病院として立ち上がったことによって、救急の現場で、一所懸命頑張っている医師や看護婦たちの努力が、きちっと報われるような体制ができるようになってきたわけです。

### 寝たきりにならない方法がここにある

——これから、われわれの病院が

のではないのでしょうか。

### 「チーム医療」で豊かな病院の姿に

——病院の理想像をひと言で。

**栗原** 昔からチーム医療の重要性がいわれています。

これについて僕がよく例に上げるのが、オシム監督のオシムジャパン。突出したスター選手はいないけれども、彼が言っていたのは、とにかく全員で走りまわること。われわれの病院も、全員で一人の患者さんに関わり、同じ課題について一緒に悩みながら、みんなで解決していくというチームでなくてはならない。

それと、いいチームのメンバーになるためには、単なる技術屋ではなくて、豊かな人間性、しっかりとした社会人としての有り様というのが求められます。医療界とまったく関係のない人たちの話を聴くような研修を盛んにしていきながら、豊かな病院の有り様というものを、目に見える形で表現し、また、そのことによって、長崎の医療界全体で、豊かなチーム医療が表現できるようなものになっていければと願っています。

果たしていく役割とは？

**栗原** 脳卒中を中心に、頭部外傷など頭の病気やけがによって障がいが残った人たちに、救急治療後に速やかに移っていただき、集中的なリハビリを行うことによって、究極は社会復帰していただくための支援を行うのが、われわれの病院の使命であり、目標ですね。

けれども、今悩んでいるのは、リハビリテーションの重要性和、われわれが考えている回復期リハビリ病棟の役割を、他の救急病院などにかかにして理解してもらおうかです。そもそも、回復期リハビリ病棟入院の適応には、病名によって制約がかけられています。

それは、発症から2カ月以内の脳卒中や頭部外傷・脊髄損傷などで障がいが残った患者さんや、大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患、そして、さらに手術や肺炎などの治療中の環境変化や安静によって生活機能が低下(これを廃用症候群といいます)して、救急病院から直接は元の生活に戻れない患者さんなど、主に高齢者に多く、寝たきりになりやすい疾患が適応なのです。

治療が終わって動けなくなったり、寝たきり状態になったからといって



スタッフ一人ひとりとも語らい、スキルアップを目指す

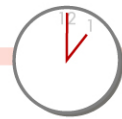
て諦めないで、地域生活に繋いでいくためにも、集中的なリハビリが有用であり、重要です。また、本来は、もっと救急病院でも廃用症候群が起らないように、治療と併行して早期から実施するリハビリが大切です。これらのことを、われわれが、もっともつと啓発していかなければならないと思いますね。

最近、回復期リハビリ病棟の質の評価が大きなテーマになっていきます。脳卒中で言えば、障がいが残っても地域生活を維持していく。あるいは介護保険のサービスを受けながらも安心して地域生活ができるようにするという目標を立てて、そのトータルで質を評価していくことが地域医療では求められている

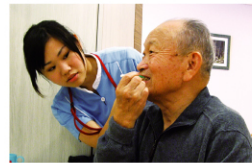
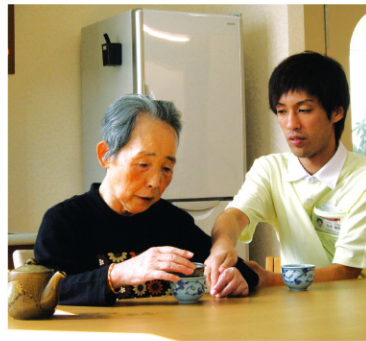


Report レポート  
病棟の一日を追う

長崎リハビリテーション病院の、ある一日をご紹介します。患者さまにとって、初めは辛い運動や練習でも、専門チーム一丸となった取り組みで、日に日に改善の糸口が見いだされていき、病棟のあちこちで、笑顔がこぼれています。



13:00  
運動・練習  
(作業療法)



飲み込みが悪くなり、口から食えることが困難になることで、肝心の免疫力や体力を落とさないために、口腔ケアや口のリハビリにも力を入れています。毎食後、担当の歯科衛生士が口腔ケアの指導を行います。



12:40  
口腔ケア



12:00  
昼食



国語  
算数  
音楽



A子さんはこの日、退院後の自宅での生活を想定して、お茶を入れたり、洗い物をしたりという練習に臨みました。リハビリですいぶん楽に手が動かせるようになったので、ゆっくりと時間をかけて入れたお茶は、格別に美味しかったようです。お孫さんからプレゼントされたミサンガ(お守り)を身につけて、とても幸せそうな表情を見せていました。



8:00  
朝食



食器は、これからの自宅復帰を想定して、一般の家庭で使用しているような器を使っています。炊きたてのアツアツのご飯と、地元の食材を活かしたおいしい料理が毎日の食卓に並びます。



7:00  
起床



目が覚めて真っ先に行うことは、パジャマから普段着に着替えることです。これも大切なリハビリのひとつです。不幸な事故に遭い、転院してきた時には反応が少なかった小学生のR君。今では、着替えもほとんど一人で行えるまでに回復し、すっかり腕白小僧ぶりを発揮しています。



18:00  
夕食



食後、A子さんは、お見舞いに来院したご主人と、夫婦水入らずのくつろいだ時間を過ごしました。健康です。すばらしいことです。結婚して63年。いつまでもお二人仲良く、お幸せに。



10:00  
余暇時間  
(クリスマスリース作り)



余暇は、好きな本を読んだり、テレビを見たりして自由に過ごします。みんなで手芸をしたり、時にはカラオケに興じることも。これらはすべて、楽しみながら手を動かしたり、声を出したりする練習の一環です。この日は、みんなでクリスマスリース作りを行いました。



9:00  
運動・練習  
開始(理学療法)



毎日の運動や練習は、理学療法士と一緒にいきます。初めは辛い運動でも、だんだんと笑顔が出るようになります。なかなか上がらなかった腕も、今では随分と上がるようになりました。

月 火 水 木 金  
子どもたちも  
リハビリを頑張っていますよ

- 小学生の患者さまは、学校の時間割にあわせて入院生活を送ります。
- もちろん、リハビリの一環として勉強もしっかり行っています。友だちに遅れをとらないように、病院のスタッフが懸命にサポート。機能回復の運動も、遊び感覚で行います。



建設工事は2007年2月5日の地鎮祭に始まり、同年11月30日の第1期工事完了まで急ピッチで進められました。この間、看護師やこの年に採用された職員70人余りが4月から8カ月間、高知県のリハビリ専門病院で長期実地研修に臨んだほか、異分野で活躍する文化人を招いた講演会を開くなど、ソフト面のスキルアップも大車輪で行われました。こうして、2008年2月1日、無事、開院。着工から、およそ2年間の歩みを記録写真で振り返りました。



開院前



地鎮祭

晴天に恵まれたこの日、地鎮祭が行われ、建設工事の安全を祈願しました。



高知・近森リハビリテーション病院研修

4月から11月までの8か月間、看護師をはじめ、この年の新卒者ら70人が高知県にあるリハビリ専門病院、近森リハビリテーション病院で、長期実地研修に臨みました。一方、地元では、開院準備スタッフらが、リハビリ・コミュニケーション・モチベーションを略した「リコモン研修」を行い、研鑽を重ねました。

オープニングセレモニー

竣工式に続いて、院内見学会。2階アクティブホールで開かれたオープニングパーティーには全国から関係者ら約190人が出席。アトラクションでは、お膝元の銀屋町の有志が勇壮な鯨太鼓を披露。

開院後



開院当日朝 全体朝礼

2月1日、前年11月30日の第1期工事完了分の102床で開院。この日の朝、158人のスタッフ全員が一堂に会する最後の全体朝礼。「地域のために一人ひとりを尽くそう」と、理事長が訓辞しました。



「チベット高原の牧場」  
絵画除幕式

中国人画家、張晶(ちょう・しょう)氏が描いた「チベット高原の牧場」の除幕式があり、中国駐長崎総領事館、藤安軍(とう・あんぐん)総領事による祝辞がありました。



2008年度入社式

開院初年の春、夢と希望に燃える66人の新人が入社。



2007  
12/3

辞令交付式  
終盤の集合研修

高知県で研修を積んだスタッフ70人が長崎に戻り、開院までのおよそ2か月間、院内で連日連夜、終盤の集合研修に臨みました。



2008  
1/17

フランス料理界の第一人者、  
上柿元勝氏講演会

元ハウステンボスホテルズ総料理長の上柿元勝氏を講師に院内講演会を開き、プロフェッショナルの心構えを学びました。19日のオープニングパーティーで振る舞われるスープが作られ、管理栄養士と厨房スタッフが手ほどきを受けました。

2008  
1/19



地域貢献活動



2008  
6/8

銀屋町清掃活動

地元町内会青年部の側溝清掃に、医師・事務長、スタッフ15人が参加し、住みよい銀屋町のために、終日、汗を流しました。



2008  
7/11-14

諏訪小の生徒が  
病院内を見学

地元の諏訪小学校の生徒が社会科見学の一環として、当病院を見学し、各フロアで担当者の話を聞きました。



2008  
10/13

「ふれあい健康教室」  
定期開催中

地域住民の皆さまの健康増進を目指して、毎月第2月曜日の19時から、銀屋町公民館で「ふれあい健康教室」を開いています。



2008  
6/1

グランドオープン

5月31日の第2期工事完了に伴い、143床でグランドオープン。6月7日には、祝賀コンサートを開催しました。

特別寄稿

「長崎リハビリテーション病院」の設計にあたって  
町並みを意識した外観と家庭の温もりのある内観

株式会社岡田新一設計事務所  
執行役員 取締役副社長 柳瀬寛夫

銀屋通りには銀細工の店が軒を連ねていた歴史があります。

一軒一軒の敷地は間口が狭く奥行き深い典型的な町屋で、その地割りは現在にも引き継がれています。よって、通りに面して長い敷地なりに、一つの大きな塊の建築にしてしまつては、これまでのまちづくりの作法に反します。そこで、いくつかのブロックに分かれて見えるように、

さらには3階までと4階以上では窓の明け方や外装タイルの色使いに違いを持たせて、巨大に見えないよう、周辺の建築と違いすぎないように配慮しました。外壁タイルの縦のストライプは、かつて縦格子の町並みが

あったことを意識したデザインです。通りからも伺えるインテリアデザインは、いわゆる病院らしくない雰囲気キーワードとなっています。



患者さまが家庭や社会に復帰されるために、この病院が目指すリハビリテーションとは、体の回復とともに、心・生きる意欲の回復も促すことです。従って、家庭のような温かさが大切です。

栗原理事長はじめ、スタッフの方々の熱い思い、これを少しでもはつきりと感じ取れるような雰囲気づくりを設計の上で心がけました。

What's NAGASAKI REHABILITATION HOSPITAL  
回復期リハビリテーションとは？

回復期リハビリテーションの意味や内容について、皆さまから数多くのご質問をお寄せいただいていますので、ここで少し具体的に解説いたします。

**患者さまの自立生活と在宅復帰を目指して**

命が助かってでも手足の麻痺や言語障害あるいは意識障害が残った患者さまはまっすぐ生活に戻ることが不可能で、ややもすると寝たきりになってしまいます。このため、救急病院での専門的治療が終了すれば速やかに集中的な回復期リハビリが必要となります。障がいも少しでも改善・克服して自分のことは自分でできるように、あるいは少しでも介護負担が軽くなるようにリハビリを行い、住み慣れたところで、その人らしく日常生活が送れるように支援していくことが目標となります。

麻痺がある患者さまにとって、歩くことはもちろんのこと、自分ひとりでベットから起き上がることも、パジャマを着替えることも、あるいは食事をしたリトイレに行くことさえ困難で、また大変なことなのです。このため、集中的な回復期リハビリ

を行うことで、これら一つひとつの動作を克服して、自立生活に向かっていたいただくことが大切な訳です。

**多職種の専門チームが総合的にサポート！**

当院では、患者さまご自身に一つひとつ体を動かしていただくことで、日常生活に即したりリハビリを行っています。医師・看護師のみならず多くの専門職（患者さまお一人に対して10人程度）からなる専門チームを入院フロアに配置し、患者さまの日常の動きを専門的立場で確認しつつ、同時に運動療法・作業療法・言語療法などを効果的に行うことで、患者さまの状態の改善を図っています。

また、チームのメンバーは、患者さまの住居・生活環境を実際に確認し、退院後の日常生活に向けたリハビリ計画を立て、プログラムを作成します。

退院が近づくと、患者さまやご家族が退院後に安心した生活を続けられるように、かかりつけ医をはじめとしてケアマネジャーその他の介護保険サービス担当の方々との話し合いの場をもうけ、退院後の生活の受け入れ態

勢を整えます。患者さまが、笑顔で退院される姿を、私もスタッフ全員が思い描きながら日々、取り組んでおります。

**転院3カ月、懸命のリハビリで回復に光**



入院1週間後

転院してきた当初のR君は、反応があまりありませんでした。スタッフが刺激を与えるために、話しかけたり、いろいろな工夫をしました。



1カ月後

1カ月後、リハビリの効果が現れだし、ずいぶんご飯が食べられるようになりました。表情も、見違えるようにしっかりとしてきました。



3カ月後

3カ月が経過。だんだん腕白になり、スタッフが振り回されています。運動の練習は、手を替え、品を替え、遊びを交えながら行っています。

Work on  
病院の取り組み

患者さまの権利の尊重

患者さまにはどのような時・どのような状態においても、人として尊厳が守られる権利があります。その権利を大切に、患者さまが自己の意思で主体的に疾病や障がいを克服していただくように、わたしたちは願っています。また、わたしたちは、患者さま・ご家族との信頼関係に基づいた「患者さま中心の医療」を実践していきたいと思っています。

1. 最善の医療

患者さまには、誰でも、最善の医療を公平に受ける権利があります。

2. 人格の尊厳

患者さまには、その人格・価値観が尊重され、一人の人間として医療を受ける権利があります。

3. 納得と合意

患者さまには、病気・障がい・検査・治療・見通しなどについて、分かりやすい言葉や方法で納得できるまで、十分な説明を受ける権利があります。

4. 自己決定権

十分な説明を受けた上で、患者さまは治療方法などを自らの意思で選択し、決定する権利があります。

5. カルテの開示

患者さまには、自分のカルテの閲覧や複写、内容の要約や説明を受けるなど、診療記録の開示を求める権利があります。

6. プライバシーの保護

患者さまには、受診に関わる個人情報を守られ、プライバシーを乱されない権利があります。

7. 研究的医療

患者さまには、薬の治験（新薬の臨床試験）や治療法が確立されていない医療について、その目的や危険性など十分な説明を受けた上で、その医療を受けるかどうかを決める権利があります。同時にどのような不利益をも受けることなく、いつでもその医療を拒否する権利を持っています。

院内に「歯科診療オープンシステム」を構築

高齢者にとって安心して口から食べ続けることはとても大切なことです。手や口の麻痺のために入れ歯が合わなくなったり、飲み込みが悪くなって口から食べることが困難になったりすることが多々あります。このような場合、しいには栄養が不足して免疫機能が低下し肺炎を起こしやすくなります。

このため、当院では長崎市歯科医師会と協議を重ね「歯科診療オープンシステム」を構築しました。登録歯科医師との連携（協業）によって、患者さまの歯科治療（入れ歯の調整など）、口腔ケア、口のリハビリを積極的に実施し、口腔機能の維持・向上を図り「安心して口から食べられる」ように支援していきます。



歯科診療施設

2008年11月、横浜の歯科医を招いて研修会

在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク歯科部会の世話人代表を務める横浜在住の歯科医師、加藤武彦氏を講師に招いて登録歯科医を対象とした研修会を開催。患者さまの入れ歯の調整や、実際に食べる検証などを行いました。



加藤医師による研修会の様子

長崎回復期リハビリテーション連絡協議会が発足

急性期（救急）病院、回復期リハビリ病棟そして介護保険領域の主だった関係者が集い、「長崎回復期リハビリテーション連絡協議会」（栗原正紀代表）が発足。昨年10月18日、NCC&スタジオで第1回研修会が開催されました。



栗原代表を議長にディスカッション

同協議会は、急性期（救急）治療後の障がいを伴う患者さまに適時・適切な質の高いリハビリサービスが継続的に提供されるために、救急医療から在宅支援に関わる様々な専門職が一堂に会して情報交換や検証を行い、切磋琢磨する交流の場（顔の見える関係づくりの場）として地域連携の推進役を担っていくこととなります。

この日の研修会では、小倉リハビリテーション病院の浜村明徳院長による基調講演がありました。



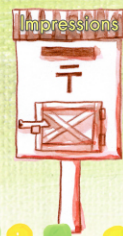
浜村院長の講演

# 聞いてみゆうde 患者さまの声

## ～退院された患者さまから嬉しい知らせが届きました～

お便りの主、阿野あや子さんは要介護5の重度の患者さまでしたが、退院後、当院の訪問リハビリテーションほか、療養通所介護、訪問看護、訪問介護を活用し、かかりつけ医の往診で経過を確認しながら自宅療養を続けています。その文面からは、ご家族の懸命な努力によって、順調に回復している様子が伺われます。

今回、ご本人の諒解を得て、全文を紹介し、併せて、当時の主治医と看護スタッフから阿野さんへのメッセージも掲載します。



### 「在宅5ヵ月、一步一步順調に回復しています」

2008年1月、突然の脳出血で急性期病院へ入院、1ヵ月後の2月、開院して間もない長崎リハビリテーション病院へ転院することができました。まずは、素晴らしい施設に感激し、主治医をはじめリハビリ、栄養、介護など多くのスタッフの方たちがチームを組んで、少しでも快復するように頑張ってくださいたのには、ただただ感謝するばかりです。

現在の医療制度ではリハビリ期間に制限があるようで、その期間ぎりぎりまでお世話になりました。施設への転院が在宅かで随分悩みましたが、病院スタッフの勧めもあって、在宅での介護を選びました。



何かも初めてで不安で一杯でしたが、病院での生活レベルを続けることができるように、多くの方たちに介護をお願いして毎

日を過ごしています。在宅になって約5ヵ月、少しずつですが回復して、意思の疎通も図れるようになりました。入院中、食事のたびに車椅子に移って食堂で皆さんと一緒に頂いたのも参考になりました。在宅の今も、日中はなるべく車椅子で過ごすようにしています。

今では朝の経管での食事が終わり、トイレで排便を済ませるのが日課になりますが、一度も失敗がありません。

口腔ケアについても、入院していた時に毎食前と食後にしていたいたケアを続けています。訪問リハビリ、デイケア、歯科医師による口腔ケア、週3回の入浴など、スケジュールを組んで、毎日忙しく過ごしています。

本当に緩やかですが、少しずつ回復の手ごたえがあるのが、家族にとっては何より嬉しいことで、思い切った在宅を選択して良かったと思っています。

阿野 あや子



**元主治医からの復信**  
大好きな阿野さん、お元気ですか？私は現在、故郷の沖縄に帰って在宅医療に従事しています。まだまだ寒い日が続きますが、お風邪などひかれぬように。末永く阿野さんスマイルで周りを癒してくださいね。  
金城 聡彦



**看護師からの復信**  
お元気ですか。阿野さんの現状報告とお写真を拝見し、安心しています。現在も私は、脳出血・梗塞の患者さまの看護に毎日、走りまわっています。全然痩せないですが…。経管の食事は、安全ですが、誤嚥性(ごえんせい)肺炎などのリスクが高いため、退院時に差上げた資料の注意事項を再確認してくださいね。またお会い出来ることを楽しみにしています。  
濱野 清美

Essay エッセイ

# 知ろうde銀屋

## 銀屋町のルーツは江戸時代

銀屋町自治会長 吉村 正美

長崎港に流れる中島川の左岸にあつて、袋橋から寺町までの通りと、鍛冶屋町通りの永田仏具店から寺町通りの畑仏具店までの通り、中通りの開病院から永石家具店までが銀屋町に含まれています。

この町は江戸時代に誕生し、暗台寺の門前(寺町)に新白金町(新銀屋町)がありました。寛永年間に銀屋町に合併されました。

昭和四十一年に「住居表示法」という法律によって、鍛冶屋町と古川町に分割されました。平成十二年の長崎くんちのあとに、旧町名に復活しようという運動を始め、平成十九年一月九日、数多くの人々の協力によって銀屋町という町名が復活しました。

戦前のくんちの奉納踊りは「大名行列」で、文政二年に創られています。町のシンボルである傘鉾「流金出世鯉」の鯉は文政三年に完成しています。大名行列は総勢五百人を超える出演者で、市民に大変珍らしがられたそ

うです。昭和十一年を最後に出すことはありませんでした。

戦後は、本踊り、奴道中を奉納しましたが、昭和三十九年を最後に辞退していました。

昭和五十七年の長崎大水害では、銀屋町も大きな被害を受けました。しかし、銀屋町のシンボルである傘鉾は奇的に無事でした。若手を中心に傘鉾の鯉を生かした出し物をと試行錯誤の末に生まれたのが「鯉太鼓」です。



長崎くんちで諏訪神社に奉納された踊町・銀屋町の鯉太鼓

長崎水害のような大きな災害が再び繰り返されないようにとの願いを込めて完成されたものです。昭和六十年に第一回を出して、一昨年は四回目の奉納を無事に終えることができました。銀屋町がある限り、鯉太鼓が続くことを祈っております。

カーを退職し、自宅を改築してオープン。「今頃は定年を迎えた同僚から『仕事があったいいね』と羨ましがられるんですよ」とご主人は笑う。

17席の全席がカウンターになっていて、一人でも気軽に入れる雰囲気なので、女性客が多いのも納得がいきます。

**てんぷら 薬院**  
住所 長崎市東古川町3-19  
営業時間 11:30~14:00  
17:30~20:30  
(オーダーストップ20:00)

銀屋町界隈で、揚げたてのおいしい天ぷらが気軽に食べられるお店が、ここ！ランチタイムは常に満席状態。

それもそのはず、エビや季節の野菜など、一つひとつ揚げて出される天ぷらが7種類に、ご飯と味噌汁、食べ放題のイカの塩辛・漬物がついて750円とは大満足！

30年前、福岡で出会った天ぷら屋さんに惚れ込んだ、ご主人の末次栄さんが、奥様の加代子さんとともに長年、温めてきた夢を実現させたのが今から7年前。

39年間勤めた東証一部上場の建築メー

**マリちゃんの 食べてみゆうde うまがもん**  
第1回「てんぷら 薬院」に行くの巻